

羅生門の妖鬼（1956）

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

時間 68分

初公開日 1956/01/03

【解説】

「牢獄の花嫁」の五都宮章人によるオリジナル脚本をもとに「殺人現行犯」の佐伯清が監督した時代劇。人気絶頂の中村錦之助、東千代之助、伏見扇太郎が初めて顔を合わせた。

ある日の夕方、渡辺綱は一条戻り橋で小百合と名乗る女性に出会うが、その女は魔性のものだった。本性を現した悪鬼の腕を斬り落とすと、鬼はそのまま飛び去っていった。物の怪が跳梁跋扈し、また群盗が出没するなど、都は不穏な空気に包まれている。源頼光の命を受けた四天王、碓井貞光、卜部季武、坂田金時と渡辺綱は都を守るべく活躍していた。羅生門の戦いで頼光に敗れた平良門の子供、平三郎敦時こそが都を騒がせる物の怪の正体だった。ある日、綱のもとへ「ひとめ鬼の腕を見せてほしい」と、乳母の茨木が訪ねてくる。

【クレジット】

監督 佐伯清

企画 マキノ光雄

藤川公成

脚本 五都宮章人

撮影 吉田貞次

美術 川島泰三

音楽 高橋半

出演 東千代之介

伏見扇太郎

月形龍之介

高千穂ひづる

中村錦之助

中村時蔵

中村歌昇

三条美樹